



## 学校に子どもたちの

# 元気な声 が戻ってきました



学校が再開しました！

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、3月から約3か月にわたって小中学校の休業が続いていましたが、5月18日（月）から地区別に登校日を分けるなど、段階的に学校を再開しました。

現在では、通常どおりの登校となり、子どもたちの笑顔のある賑やかな学校が戻ってきています。

今後は、夏休みの短縮などで、授業時間を確保していく予定で、学習面での遅れにも対応していきます。

〈教育総務課：0548-53-2642〉

各学校・社会教育施設等での  
コロナ対策については次ページで紹介しています。



さまざまな  
学校でのとりくみ 



ビニール手袋をつけています。

↑ 給食配膳は手袋をつけて  
↓ 机の間隔を空けての授業



↑ 音楽の授業では、机に仕切りを設置



↑ 手洗い場には、間隔を空けるための足跡マーク

フェイスガードを着けて授業 ➡

【フェイスガードの良いところ】  
顔の下半分が透明な素材で覆われています。  
①飛沫が飛ぶのを防止！  
②先生の表情がよく見える！



## 学校行事などについて



【夏休み】 8月5日～8月25日  
【冬休み】 12月24日～1月6日 } この中で学校が定めた期間  
【修学旅行】 時期をずらして実施予定  
【各種行事】 各種行事は学校ごとに計画

- ※ 期間や実施日は各小中学校によって異なります。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の影響等により、予定は変更する可能性があります。

# 社会教育施設について

## 注意⚠

新型コロナウイルス感染症対策のため、利用にあたっては、次の点についてご協力をお願いします。

- ① **自宅で体温を測ってくる。**（受付時に配付される健康チェックシートに記録）
- ② **マスクの着用、手指の消毒や手洗い**をする。
- ③ 窓を開けるなど**換気の工夫**をする。
- ④ 人と人の間隔を空け、**近距離での会話を控える**ような工夫をする。
- ⑤ 渡された消毒セットで、使用後、手が触れた部分の消毒をする。（手袋は各自ご用意ください。）
- ⑥ 三密を避けるため、会議室等の使用人数制限内で利用する。

## 各施設の利用人数など

### 相良総合センターい〜ら

(室名)	(利用できる人数)
福祉団体活動室	36人
ボランティア活動室	9人
会議室	12人
和室1・2	6人
楽屋1・2	2人
楽屋3	3人
ホール	内容により人数制限

い〜ら Tel.0548-52-5544

### 相良図書館・榛原図書館

- ①座席数を約半分にしています。
- ②長時間の滞在はできません。

#### 移動図書館

通常運行中です。

榛原図書館 Tel.0548-23-0094

相良図書館 Tel.0548-53-2649

### 牧之原市相良史料館

(室名) (利用できる人数)

1階展示室 5人  
※7月20日現在、団体での受付はしていません。

2階ホール 100人

相良史料館 Tel.0548-53-2625

### 榛原文化センター

(室名)	(利用できる人数)
集会室1・2・3	12人
和室1・2	7人
実習室	10人
小会議室	3人
中会議室	15人
大会議室	50人

榛原文化センター Tel.0548-23-0002

### 萩間公民館

(室名)	(利用できる人数)
大集会室	38人
相談室	5人
研修室	10人
和室	13人
調理室	10人

萩間公民館 Tel.0548-54-0840

(館長勤務日/金・土・日)

片浜事務所 Tel.0548-54-0311

### トーク地頭方

(室名)	(利用できる人数)
図書館	4人
研修室	8人
和室	15人
大集会室	56人
調理室	12人

トーク地頭方 Tel.0548-58-1690

(館長勤務日/金・土・日)

片浜事務所 Tel.0548-54-0311





この辺りにつ  
く予定です！

## 給食受け室にエアコンを設置

今年度は8月上旬まで授業があることから、給食の傷みを予防するため、給食受け室にエアコンを設置します。〈教育総務課：53-2642〉

## 編集後記



ある夜、家から見える地元の大通りを眺めながら呟いてみた。「コロナのせいか、すっかり人影が消えたなあ…」すかさず子どもが返してくれた。「いつものことだって！」

そう、ここには満員電車もぎゅうぎゅう詰めバスもない。移動は基本的に自動車、自転車そして徒歩の街。クラスターとも縁が薄い。

新型コロナウイルスの蔓延により、一時期大都会の繁華街から人影が消えたとき、私たちが住む街には、常に程よい距離感が保障されていたということに気づいた。蜜に群がるハチのように都会生活に憧れる人は多い。だけど蜜ならぬ“密”が恐怖の対象になる！初めてそんな経験をした。

それらの様子をテレビで眺めながら、人が田舎に魅力を感じてくれることに期待したくなった。今後、都会の過密に対する嫌悪感みたいなものが多くの人の中に残るのではないだろうか？テレワークを使えば、希望する仕事をしながらこの田舎街に暮らし、田舎で子育てをしていけるようになるのではないか？田舎暮らしの価値が上がるのではないか？

今現在もコロナとの戦いは続いている。予断を許さない状況が続いているが、この危機を乗り切った先、「アフターコロナ」には、この牧之原市の“これまでの予想を少し超えた”発展があることを期待したい。

編集委員長 澤田衛